

*今年もあっという間の一年でした。それでも振り返れば様々なことがありました。何よりも東日本大震災は、忘れることができません。このときの津波の映像を私はカナダの田舎町でみることになりました。本当に信じられない光景に、体がすくむ思いでした。私はその前の北海道東方沖地震をアメリカで知り、阪神大震災のときは、アメリカからの帰りの飛行機の中で、日本のホテルについて初めて燃え上がる街を見ました。年に一度ほどしか行かない外国ですが、なぜかそういうタイミングになります。この東日本大震災での、日本人が示した我慢強さや社会秩序の強さを世界が驚嘆し賞賛しました。不謹慎化もしれませんが、感動しました。当社としても、できるだけ寄付をさせていただきました。福島などはいまでも糞尿の行き場がなく、問題が蓄積しつづけているとのこと。いち早い解決と復興を願うばかりです。

*3月には事務所が大幅に増築され大きくなり使い勝手がよくなりました。女性陣念願の女子トイレも新設され思う存分ようをたせるようになりました。PCRなどの検査機器なども導入され検査体制も充実しました。

*4月には、新人二人が入ってきました。新人を育て上げるのには大変な努力が必要ですが、山下そして佐竹らが中心になって一生懸命に育てています。酪農家の方にもその点でご迷惑をおかけした場面が、何度もありましたが忍耐強く彼らを見守っていただいたことに深く感謝します。今彼らも徐々にこの地域になじみながら、一人前の獣医師として羽ばたこうとしています。今や大動物臨床獣医師は「金の卵」といわれるほどに、なり手が少ない状態が続いていて今後この傾向はますます強くなると考えられています。農水省も大学と連携してさまざまな仕掛けていますが、その数が増える傾向がなかなか見られない状態です。だから、あまやかすということではなく、大事にみんなで育て上げたいと思っています。どうぞそのことに関してのみなさんの深いご理解をいただきたいと思います。職場（農場）では、厳しく鍛えてあげていただき、同時に温かい目で見守ってほしいと思います。必ず近い将来、我々や地域のかげがえのない戦力になることとおもいます。

*6月には富岡獣医師がアメリカに長期研修に行き、大きくなって帰ってきました。

*7月には、長く当社の診療体制を支えてきた阿部獣医師が、故郷のほうへ帰りました。壱岐というところで元気にやっています。彼の退職記念講演とお別れ会には大勢のみなさんがお集まりいただいたことに、この場を借りてお礼申し上げます。彼からもくれぐれもよろしくといわれています。壱岐には、その高みに黒崎砲台というところがあるそうで、一度行ってみたいと思っていますが、阿部君としてはせつかく北海道の黒崎から逃れたのに壱岐の高みにその黒崎砲台があり結局逃れられなかったとぼやくことしきりです。

*夏場は乳房炎をはじめとする病気が多かったように思います。皆夜遅くまでがんばってくれました。

*厳しいと言われる酪農情勢の中で、多くのかたが生産を伸ばしながら頑張っていることに敬意を表したいと思います。来年も「Nothing Challenge Nothing gain」で頑張りたいと思います。人も牛も健康で良い年をお迎えください。今年一年ありがとうございました。そして来年もよろしく願いいたします。

黒崎